



学園通信

◆2018年(平成30年)1月22日発行 ◆Vol.6

故きを温ねて、新しきを知る
〜葵学園のあしあと〜

葵学園の歴史を知るシリーズも今回で6回目になります。創立した昭和39年から始まり60年までを振り返ってきました。

この20年間は、幼稚園関係者にとって右肩上がりの時代であったと言えます。子どもたちの数もさることながら、幼児教育に関する社会的ニーズも高かったのです。

一例をあげれば、昭和39年に帯広市内の幼稚園に通う子ども数は1,281人でした。昭和60年は2,930人です。約1,700人増えているのですが、その20年後の平成17年には2,111人に減っています。819人の減です。単純に言えば、五つの幼稚園の園児数に匹敵する数です。

当時の葵学園は、この見通しに甘さがあったと言えます。昭和60年代に入ってから葵学園は経営難の色がだんだんと濃くなっていきます。

学校法人帯広葵学園

理事長 上野敏郎

起死回生を願って平成2年の葵学園は、西25条に葵西幼稚園を三つ目の幼稚園としてスタートさせます。今のつづじが丘幼稚園です。

当時の理事者は、この葵西幼稚園をこれからの主軸にしたいと考えたのでしよう。しかし、この作戦は当初の計画通りには進みませんでした。

その要因は、葵西幼稚園の園児の定員許可が少なかったこと、老朽化と園児減少が著しい葵幼稚園の閉園が実現できなかったこと、最高で300人を数えた葵南幼稚園も平成3年には215人まで園児数が落ち込んだこと等々、負の歯車の急回転を止めることができなかったのです。

葵学園(旧名帯広源照学園)は、その暗闇から抜け出す方法を探りださなくてはなりません。

子どもに必要なことはすべて **児童憲章** の中にあります

児童憲章

第四条

すべての児童は、個性と能力に応じて教育を受け、社会の一員としての責任を自主的に果たすように、みちびかれる。

All the children are to be educated regarding their personality and ability, and are to be guided so that they independently fulfill their responsibility as the members of society.



幼稚園型認定こども園 **帯広の森幼稚園**



幼稚園型認定こども園 **つづじが丘幼稚園**



保育所型認定こども園 **緑陽台保育園**



小規模保育所 **012 青い鳥保育園**



★幼稚園教室・ベビーダンス教室
あおいキッズハウス



児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援
あおとり